令和３年度第２回秋田県職業能力開発審議会の要旨

【新型コロナウイルス感染拡大により書面開催】
　会議資料発送　　令和４年３月１０日
　会議資料に対する意見等提出期限　令和４年３月３０日

【書面にて回答をいただいた委員】
　学識経験者：江畠委員、佐々木（純）委員、佐藤委員、西野委員、山口委員
　事業主代表：雑賀委員、佐々木（正）委員、堀江委員、山内委員、山﨑委員
　労働者代表：工藤委員、今野委員、進藤委員、三浦（孝）委員、三浦（智）委員
　特 別 委 員：橋委員

【事務局】
　秋田県産業労働部雇用労働政策課

【議事】
　議題１　令和３年度県立技術専門校の修了・就職状況について
　議題２　令和４年度県立技術専門校の入校・選考状況について
　議題３　令和３年度職業能力開発事業実施状況
　議題４　令和４年度職業能力開発事業実施計画
　議題５　令和４年度第１１次秋田県職業能力開発計画に基づく取組の概要

議題１から議題５までに関して、異議なしが１５委員、異議ありが１委員であった。
次のとおり御意見等をいただいた。

【委員からお寄せいただいた御意見等】
・技術専門校については、課題となっていた中卒者コースの募集を令和４年度から止めた事は、高校が義務教育化している現在の社会情勢からして至極妥当だと思う。
　また、令和４年度は全体として秋田校以外は応募者が集まっていない。特に鷹巣校の場合が顕著である。現在第５次選考までやっているにも関わらず応募者が少ないのは、単なる人口減少だけだろうか。地域別の必要性、学校の適正配置などについても、将来を見越して検討する時期に来ているように思う。

・離職者訓練では、人材が欲しいはずの介護関係に人が集まらないのが残念だが、何かいい方策がないものかと考える。
　ただ、３校それぞれの定員、応募者、入校者、修了者、就職者数を見ると、就職者が極端に少ないのが不思議である。本気で就職を考えず、ただのパソコン教室のように見られているとすれば、応募者を選考する方法も必要となるかもしれない。

・障害者訓練に関しては、必要不可欠ではないかと思うので、少数でもこのまま継続するべきである。

・修了・就職状況について

技術専門校３校においての就職内定率は、ほぼ１００％であり入校してきた生徒のキャリア教育が優れていることを証明していると思います。

鷹巣校の住宅建築科の１名の就職場所が県外ということ以外は、ほぼ県内の就職者であり県内で社会貢献するという主旨としてすばらしい結果であります。

・入校・選考状況について

秋田校の充足率が高いことはすばらしい事だと思います。これは、今の時代に即した、情報系の内容が充実しそれを学びたいという生徒が多いからと考えます。

以前は自動車整備科の倍率が高かったと記憶しておりますが、メカトロニクス科とともに下がった原因の分析が必要かと思います。

秋田校以外の専門校においての充足率の高低は、その時の時代を反映していることも影響していると思います。求人企業の職種の推移などを参考に何年かけて科のリニューアルを考えていくべきだと思います。

技術専門校を卒業すればこんな企業に就職できるといったデータを出して、高卒からもう一つ上のランクの仕事が出来るというコマーシャルか、優良企業名を公表してみたらいいと考えます。

募集の戦略は、やはり学校を知ってもらうことにつきますので、今まで入校してくれていた学校、新規の高校へパンフレットを持って訪問するなどアイデアを出して実践していくべきと考えます。

・職業訓練を求める多様な要望があります。それにできるだけ答えようと努力されておられることに敬意を表します。それぞれの訓練の充実と共に、要望の多い分野の拡充も柔軟に対応していく必要があると思います。特に今は、デジタル人材の育成が、多くの分野において急務となっていると思いますので、宜しくお願い致します。

・「風力発電等の再生可能エネルギー分野の訓練の拡充」について、今後秋田で需要が見込まれる分野であり、広報して人を育てていくことを期待します。

・鷹巣校の充足率低下は気になります。自動車整備や機械システム関連はいずれのところも低いですが、就職率が高いところをアピールしていくことが必要でしょう。また、訓練科目は、ICT や情報系に基軸を移し、定員も増やしていく必要があるかもしれません。

・建築工芸科入校０では、必要が無いのでは。
中卒より大卒の方に専門的な技術を習得してもらうのはどうか？

・相変わらず、自動車整備科と住宅建築科の定員不足は、技術継承の為にも増員を願うが、何か若者に魅力的な仕事に思えるアイディアは無いのか。このままでは、住宅職人もますますと不足の心配です。

・パソコン初等のみだけだとそのまま仕事に就けないので中等、上等のレベルアップの科を設けてはどうか？

・やはり魅力有るコースをもっと研究して欲しい。

・（資料：第１１次秋田県職業能力開発計画の概要の）方向性３の１　個々の多様なニーズに応じた多様な職業訓練はこれからも実施して欲しい。

・離職者訓練「パソコン初級科」就職率について
　若年層では、デジタル化が進む中、パソコン初級では、もしかしたら雇用する側としては、必要な人材から外れてしまうのではないか？
　訓練期間を長くするか、２段階等などでレベルを上げられないか？
　または、何か１つのことに特化して習得するなど、就職業種を限定することで、就職率を上げることができないだろうか？

・課題は他にもあるとは思いますが、提案です。
　弊社を例に上げれば、ＨＰに特化した人材を必要とするも、企業の顔となるツールなので、技術だけではない人間性や人生経験、社会的な常識などをふまえ、人選したいと考えます。

・（資料：令和３年度県立技術専門校の修了・就職状況を記載の）２ページ～：入校者総数１１８名、修了者数１０８名で１０名がリアイアしていますが、せっかく選抜試験をくぐり抜けて入学したのに残念に思います。
　色々な理由はあったと思いますが、どのような事情が多かったのでしょうか？過去のケースを参考にして、是非入学選抜時にはできるだけ中途でリタイアする生徒が少なくなるようにお願いいたします。

・（資料：令和４年度県立技術専門校の入校・選考状況を記載の）３ページ～：過去の審議会でも話題になっていますが、秋田の情報システム科定員２０名に対し応募が４７名で合格者が２３名となっています。
　設備の関係で、しょうが無いとは思いますが、今後もこの傾向は続くと思いますので、どうにかして応募者の要求にできるだけ応えられるように設備の増強等考えていただけないでしょうか？

・秋田校の他に大曲校にもおりましたが、特に秋田校でかなりの競争倍率をくぐり抜けて合格したにも関わらず入校辞退者が１名出ており残念です。思ったのは、キャンセル待ち（表現は良くありませんが）のように次点の入学希望者が、入学出来たらよかったのにと思ってしまいました。

・鷹巣校の応募者がどちらも３名で少なく残念に思いました。
　出来るかどうかは分かりませんが、秋田校で人気のある情報システム科を鷹巣に作るとしたら入学するかどうかアンケートを実施し、状況を探ることも必要ではないでしょうか？

・新型コロナ禍の中で様々な苦慮の下、取組みをなさっておられる事と拝察致しました。下記に意見を述べさせて頂きます。
　①就職率の良さ→非常に高レベルでの就職率に加え、県内企業への就職もとても多い事が学校の必要性を実感できます。

②地域による応募人数のバラツキ→企業のニーズと応募者のニーズが合っていないのか、それとも技術専門校そのもののニーズが減っているのか。また、各科の内容がよく判らない為なのか、確認の手立てはないのでしょうか。

③科（新設）に対する募集人数少→企業のニーズと応募者のニーズがマッチングしていないこともありますが、応募者もそのことを理解していない可能性高いので、事前説明会のやり方を考慮必要。

※上記に対して提案→１年目の３カ月程度は「総合科」等で複数選択可とし、その後、各専門科に分かれて進めていくことは出来ないでしょうか。

・（資料：令和３年度県立技術専門校の修了・就職状況を記載の）２ページ：大曲校電気システム科の県内就職率が低い。どうしても好条件の県外へ流れてしまうのか。残念。もっと県内企業に好条件で雇用できないか働きかけが必要。

・（資料：令和４年度県立技術専門校の入校・選考状況を記載の）３ページ：秋田校情報システム科の定員を増やす事はできないか。学ぶ意欲のある人はできる限り受け入れる体制にするべき。

・（資料：令和３年度職業能力開発事業実施状況を記載の）５ページ：離職者訓練について「パソコン初級科は…」と記載があるが、そもそも"初級科"の技術・知識が直接就職に繋がるとは思わない。初級科レベルは、どの企業においてもできて当たり前の社会である。＋αの技術が必要なので、これは他のコースのマストに加えてみてはどうか。

・（資料：令和４年度職業能力開発事業実施計画を記載の）８ページ：Ｉ－１「求人ニーズなどの地域ニーズを確認のうえ計画」とあるが、ニーズになっている＝不人気＝募集しても応募が少ない　のが現状。かといって、地域ニーズを無視するわけにはいかないので、もっと仕事内容をわかりやすく知ってもらう必要がある。知ってもらうことがニーズに対応していくカギになると思う。

・製造業全般において、電気系の技術者のニーズが高まっていると感じる（制御、プログラマー、回路設計、製作）
　鷹巣校にもそのような科があればよいと感じる。

・介護研修の応募者が少なく中止とあるが、県としてはニーズがあるが求職者のニーズと合っていないという事になるのだろうか。介護が待遇が悪いというイメージからきているのであれば、そこから是正していく必要があるのではないか。

・ＰＣ初級科のコースですが、タブレット端末なども授業内容に入っているのでしょうか。近年の状況からしてタブレットの需要も高まっているので、そういった内容も入っていればより良いと感じました。

・新秋田元気創造プランにあるとおり、引き続き、デジタル人材の育成に向け、求められている能力について、関係機関から幅広く情報を集め、教育・訓練を充実していただきたい。

・風力発電等の再生可能エネルギー分野の訓練拡充について、今後秋田県は全国に先駆けた風力発電の立地地域として注目されることも予想される。
　他県にはない秋田だから学べる魅力をアピールし、訓練者数の増加、さらには秋田県内雇用者増加につながるよう、今後も訓練内容の充実、ならびに関係企業とのタイアップも視野に入れた訓練の導入等を検討していただきたい。

・（資料：令和３年度職業能力開発事業実施状況を記載の）５ページ：離職者訓練について、パソコン初級者科は応募が多いが、就職率が低いとありますが、原因はわかりますか？ニーズに合っていないということですか？

・（資料：令和４年度職業能力開発事業実施計画を記載の）８ページ下段：障害者の受講機会の拡大を図るため、離職者と障害者が一緒に受講する「混合訓練」を実施するとありますが、ねらいは何ですか？何を期待して「混合」としたのか、教えて下さい。

【事務局からの回答等】
・技術専門校普通課程の定員充足率について､定員割れになっている科もあることを考慮し、第１１次計画にもあるとおり、今後も先進技術への対応など、企業ニーズを踏まえた訓練内容の見直しを図ってまいります。

・入校したものの修了に至らなかった訓練生の主な理由は、就職などの進路変更が挙げられます。引き続き訓練生に寄り添った丁寧な指導や個性に合わせた柔軟な訓練を進めてまいります。

・パソコン初級科の就職については、企業のニーズはあるものの、求職者とのマッチングについてさらにサポートが必要と思われますので、今後もキャリアコンサルティングを行うなどして就職につなげてまいります。

・離職者と障害者の混合訓練については、障害者訓練では応募者が少ないことによりまとまった人数が集まらず、訓練が中止になった事例がありました。中止になることを避け、１人の応募でも訓練機会を確保したいと考えまして、この形式となっております。

・委員の皆様から頂戴した御意見を踏まえまして第１１次秋田県職業能力開発計画に基づく取組を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。